

乳牛の第四胃変位発症メカニズムの解析

現地調査の結果、乳牛の第四胃変位の主要な発症要因は、分娩、過肥および飼料摂取量不足であることが明らかになりました。また、X線透視装置の導入により第四胃変位発症牛などの消化管の観察が可能となりました。X線透視検査や血液検査などから、これら発症要因が第四胃変位の発症を引き起こすメカニズムについて示すことができました。

第四胃変位の主要な発症要因

- ①分娩 第四胃変位は80%が分娩後1ヵ月以内に発症している
- ②過肥 分娩前のボディコンディションスコアが高いほど第四胃変位の発症率が高い
- ③飼料摂取量 分娩前後の飼料摂取量が低い牛群で第四胃変位が多発する

第四胃変位発症牛の消化管は



- ・第二胃および第一胃前房が縮小・浮上
- ・第四胃が変形・拡張、特に胃体部(第四胃の前方)が浮上・ガス貯留

浮上した第二胃および第一胃前房の空隙に、拡張した第四胃体部が入り込み、第四胃変位を発症

第四胃変位の発症メカニズムの検討

分娩(妊娠)

分娩牛は妊娠子宮の圧迫により第四胃が変形し、前方へと移動している。



飼料摂取量不足

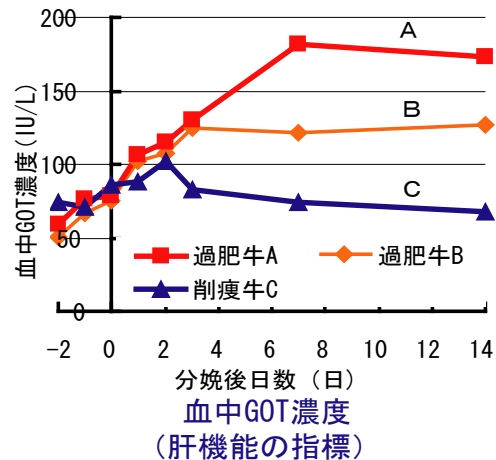
摂取量が低下すると、はじめに第二胃および第一胃前房の浮上が認められる。



第四胃変位発症!

過肥

太った牛が分娩時に飼料摂取量不足になると、肝機能低下など、一般症状が悪化する。(さらなる飼料摂取量不足を招く)



第四胃変位低減のためには、過肥状態での分娩を避けること、分娩前後に十分に飼料を摂取させることが最も重要なポイントとなります。